

## 特集：卒業

## 伝説

## 徳永 幸彦（筑波大学 生命環境科学研究科）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんが1年生の時、私はいくつか提案をしました。私自身、その全部を覚えている訳ではないのですが、思い出せるものとして以下の2つがあります。

1. 既存のサークルや組織には入らず、自分で活動してみよう。
2. 伝説（もちろん、いい意味での！）を作ろう。

1.について、あまり実行した人はいなかったようです。2.については4年間で私の耳には、これといった伝説は聞こえてきませんでした。

3年生になると、何人かの人は企業のエントリーシートと格闘していました。「就活はエントリーシートから始まる」というデマに踊らされた学生さんたちもいるかも知れません。厳しい就職戦線に生き残り、自分の希望する、あるいは妥協できる就職先で4月からスタートする皆さんは、自分の数年後が見えているでしょうか？大学院へ進学を進めた人たちの中には、大学院は就職氷河期が行き過ぎるのを待つ間の時間稼ぎと思っている人がいるかも知れません。企業も研究室も、サークルではありません。それぞれ最大化する目的のために動く組織であり、特に最近では組織としての短期的なパフォーマンスを様々な形で評価されるようになってきているため、サークル気分で参画している人たちはあっという間に排除されてしまいます。

就職で重要なのは、選ぶ側に自分の存在が知られていることです。大都会の大学のサークルは、OBやOGとのつながりだけでなく、日頃の活動そのものが将来の就職先と直結したものとなっています。だから学生にとって、サークルに参加することは大変重要な意味があるのです。サークル活動の中で、組織のルールを学び、組織に自分を知らしめるためにアピールします。残念ながら筑波大のほとんどの文化系サークルでは、こういった企業インターンシップみたいな経験はできず、本当にエントリーシートが就活のスターティングポイントになってしまうのです。もちろん、伝説を持った学生は、サークルに属さなくても、人に知られるところになります。つまり、伝説を持つことも就活なのです。

数年前になりますが、もうすぐ博士を取るという大学院の学生が、研究職でなかなか就職先が決まらず、エントリーシートを書きながらの就活を始めていました。就活でうまくいかないとなぜか私のところに来て、いろいろ報告してくれました。最初はただがむしゃらに就活していた彼は、いつしか就活に向かう列車の中で就活仲間を作り、いろいろ話し合うようになったそうです。そ

の中で気がついたのは、企業は自分がやってきたことではなく、これから企業においてできることに興味があるということです。また、研究職で雇うからといって、研究手腕に期待している訳ではなく、自分よりも若い研究スタッフ達をまとめるマネジメント能力を要求されているということにも気がついたそうです。

彼からの報告を受けて私が思いついたのは、就活サークルです。メンバーはきちんとリクルートスーツを来て、TXで秋葉原に向かう間に、各々本当に就活している人と話し、情報を得ます。例えば就活している時の身だしなみや、どういう情報雑誌を読んでいるのかなど、マンウォッチングの中からでもいろいろ有用な情報が得られると思います。そしてTXの折り返し便の中で、得られた情報について議論します。往復2時間弱、2,000円ちょっとで、有意義な就活のノウハウが身につくという算段です。このサークルは実は一人でもできます。2年先に大学を修了する予定の人は、一度試してみてもいいと思います。

さしあたっての就職、あるいはさしあたっての進学をした人たちも、生物学類で過ごした4年間で少なからず友達を作ったと思います。子供と大人の境を越える時期に一緒に過ごした友達は、将来の自分にとってとても大切な人材になります。大学を出た後も、できるだけ連絡を取り合い、身近な存在にしておくことをお勧めします。そして、いつか彼、あるいは彼女のいる方向から聞こえてくる「伝説」に、耳を傾けるようにしてみてください。そして今まさに自分で「伝説」を作り始めている人は、是非その伝説を私の耳にも届くように、頑張ってみてください。あなたの伝説を待っています。

Contributed by Yukihiro Toquenaga, Received April 14, 2010.